

## 巨樹巨木シリーズ23 長野県

細田木材工業株式会社  
顧問 細田 安治

今月から長野県に入る。まずは、長野県の気候の特徴を簡単に述べる。内陸県のため、前線や台風の影響を受けにくいことから、湿度が低い。また、一日のうちの最高気温と最低気温の差が大きい。このような長野県(信濃の国)を、資料提供者のU氏は自家用車を駆使し2泊3日で55本を探索した。U氏の活動的な足跡を追いながら、巨樹・巨木・奇樹・珍樹・変木等をご紹介します。筆を進める。

### 写真番号-1 白山神社のイチイ

樹齢1000年、樹周6.1m、樹高12m、佐久市常和字岩久保 佐久市指定文化財

この樹は昔から疣神様、虫歯神様と言われ、小石で疣をこすって洞に投げ入れれば疣は治り、虫歯の痛みは取れる、と言い伝えられ、地域の人々の崇敬するこのイチイの古樹は、寛文12年(1672)の頃、神木として崇められていた(略)。佐久市教育委員会 案内板より  
〈筆者のつぶやき〉

このイチイは エビ蟹(ロブスター)が「鉋を立てて立ち上がりなにもものかに襲い掛かろうとしているサマ」に見えた。ハサミを振り回し近寄れば「ケガするぞ」と言わんばかりに猛々しい。

しかし写真をもう一段深く見ると、近寄りがたい神々しさがある。これはいったい何だろう？この何だろう？とは、このイチイの古木の「樹齢1000年に漂う威厳」ではないか。なるほどと納得しかつ感動した。案内板にある「近在ではまれにみる巨木であり、古くから地域の人々から崇められている古木」がもつ雰囲気写真から滲み出ている。

はげ落ちた案内板は読み取りが大変だった。難しい字が出て戸惑ったのは、疣であ

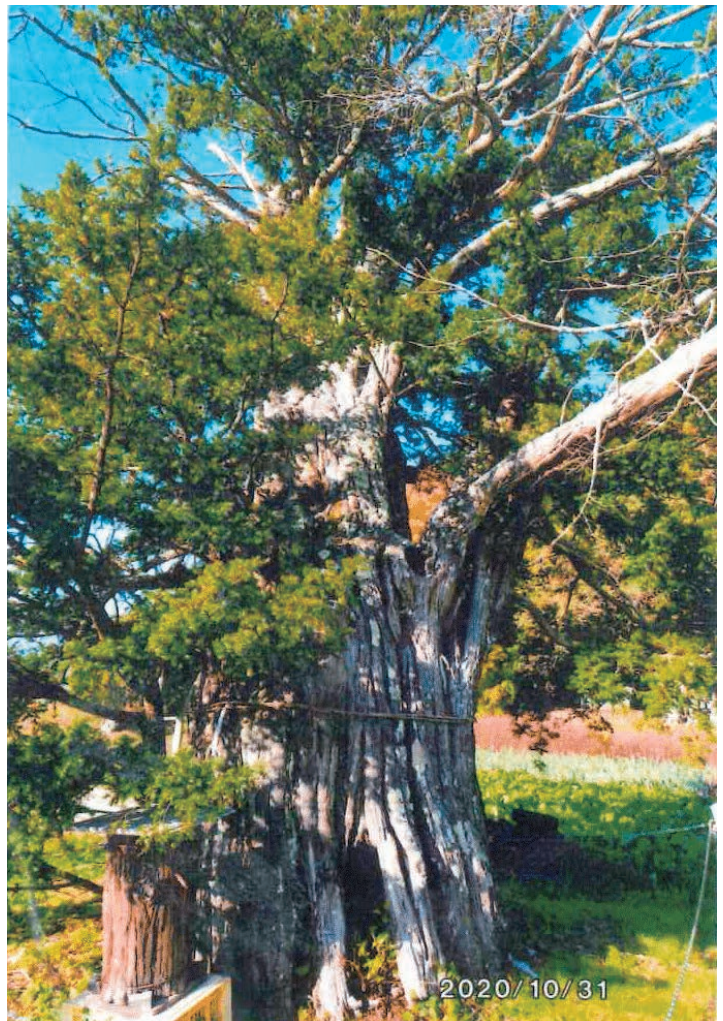


写真1 白山神社のイチイ



る。読み取れず、<sup>ざい</sup>疔と読み違い混乱した。自分の知っている字は多くない。字に限らずすべてに言える。1000年生のイチイに教えられた思いだ。

イチイはイチイ科の常緑針葉樹、赤い実はほんのり甘い、種には毒があるため、食用はすすめられない。別名アララギやオンコとも呼ばれている。ここにきてやっと、木材やが知っているアララギが出てきて急に親しみを覚えた。案内板は読みにくかったが、素晴らしい古木であることがわかり、骨を折った甲斐があった。

### 写真番号-2、3 住吉神社のケヤキ

樹齢400年位、樹周7.0m、樹高15m 佐久市岩村田住吉町

このケヤキは、見る方向によって見方が変わるので、特別に2枚の写真、つまり二方向から撮影した姿を掲載させていただく。

#### 〈筆者のつぶやき〉

一枚目は、「二人のお坊さんが菩薩のように目を閉じて鎮座し肩の上からまっすぐに伸びた巨木を支えている姿(上人の御像)」が思い浮かび、上人様の像に向き合った時のように厳粛さに打たれた思いだ。

二枚目は、村祭りで村人が担ぐ神輿とみた。大勢の人々が一つの神輿に群がるも、担ぎ手が多く後から入る隙もないほど密集し「わっしょい」の掛け声で元気よく練り歩こうとしている。

このようにさまざま想像を膨らませ、何かにとえると、面白くなる。巨樹・巨木に限らず立ち木を見る際の楽しみの一つになってきた。いかがでしょうか。



写真2 住吉神社のケヤキ(二人のお坊さん)



写真3 住吉神社のケヤキ(神輿を担ぐ人々)



#### 写真番号-4 大師の逆さ杖のシナノキ

樹齢300年以上、樹周6.04m、樹高30m 東御市新張

シナノキは、アオイ科の落葉広葉樹で、レモンに似た香りをもつ花を咲かせ、良質な蜜が取れる。また、木の皮からは丈夫な繊維が取れて、古来より衣服に使われていた。

林野庁による「森の巨人たち百選」に選出されている。以下に案内板の説明をご紹介します。

ここは古くから群馬県盛沢への峠道で一番観音を起点として沿道に、百体の観音石像が安置されている。その五十番目馬頭観音像を守るかのように、この大木シナノキがある。このシナは別名「弘法大師のさかさ杖」とも呼ばれている。平安の昔、嵯峨天皇の御代に弘法大師諸国行脚の折、大師がこの峠に差し掛かり、この地で休まれた。その時、手にした梨(シナノキ)の木の杖を大地にさしたところ、その杖が逆さに根付き、このシナノキの大木となった、と伝えられている。また他の伝説には「義仲雨宿りシナ」とも伝えられ、この辺りに「義仲の駒返し」という場所がある。所沢川の一溪沢の平坦地に生え、樹相根元より二つに分かれ、シナノキとしてはこれだけの大木は珍しい。

#### 〈筆者のつぶやき〉

「逆さ杖」とは仏事に使われる杖で、仏教でいう「逆さ事」の一つである。「逆さ事」とは、普通することとは逆のことをして、死者と生者を区別するという考えのことである。

なぜこのシナノキが逆なのか。杖の下部分は杖にすがって歩く人のため杖の下部分を二股にしてある。歩く人がバランスを崩して倒れるのを防ぐため下部を二股に強化しているのである。弘法大師はお休みになられた時、杖の上下を逆さにしたのではないかと、そこからこの「弘法大師の逆さ杖」の伝説ストーリーが始まったのではないかと想像は広がる。

似たような伝説は愛媛県にもある。愛媛県松野町には「逆さ杖のイチヨウ」がある。いわれは、シナノキと同様で、弘法大師が立ち寄った際に使っていたイチヨウの杖を逆さにしたものから、イチヨウが根付き大木になった、というものである。

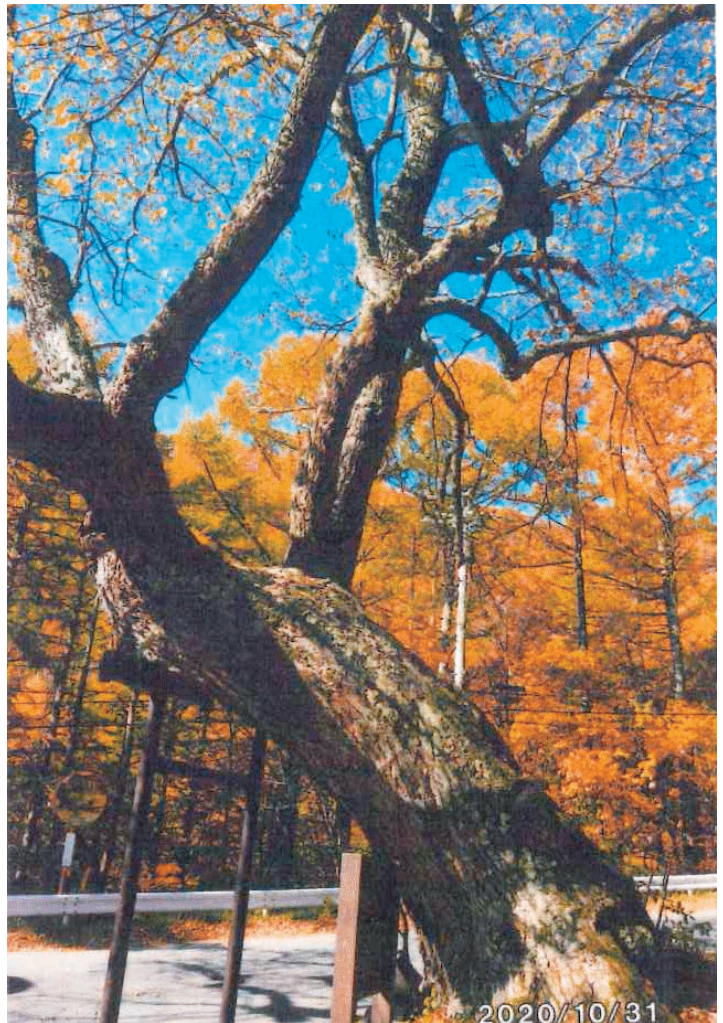


写真4 大師の逆さ杖のシナノキ

## 写真番号-5 蓼科神社の<sup>じんだい</sup>神代スギ

樹齢1500年、樹周10m、樹高20m 佐久  
郡立科町大字芦田 町指定天然記念物

この神代スギは、蓼科神社の理宮の入り  
口の参道に立ち、伝承だが樹齢1500年とい  
う途方もない樹齢をもつ。案内板には、蓼  
科神社の説明があったのでご紹介する。

古い史籍に現れるのは蓼科神で、陽成天  
皇から元<sup>がんぎょう</sup>堯2年(878年9月16日)に正六位  
から一階進めて従五位下を授けられている。

蓼科神社の奥社は蓼科山頂にあり、この  
社殿は里<sup>さと</sup>見<sup>み</sup>宮<sup>みや</sup>といい古い山岳<sup>さんかくしんこう</sup>信仰の面影を  
そのまま伝えている。明治八年、蓼科神社  
と改称される。前は高<sup>たか</sup>井<sup>い</sup>大明神<sup>だいめいじん</sup>といい里俗  
では飯盛<sup>いもりかみ</sup>神、八王子<sup>はちおうじ</sup>権現<sup>ごんげん</sup>ともいわれる。また  
古い棟札によると八塩<sup>むなふだ</sup>権現<sup>ごんげん</sup>ともいわれた。

時にこの神代スギは(中略)、樹齢千五百  
年に及び、蓼科神社の御神木として旧藩時  
代より保護が加えられてきた。平成元年長  
野県内の巨木調査により十本のうちの一つにして十位である(略)。

### 〈筆者のつぶやき〉

神社の創設は西暦878年とあり、この古木の生まれは同時期と思う。かつては、遠くから目印になるほ  
どの巨木であったが、度重なる火災や落雷により、このような姿となった。

この神代スギを古木というより神木と呼ぶことにしよう。この神木の厳肅で神々しい威厳が周囲に及  
んでいるのがうかがえる。案内板には枯死寸前とあるが、木の幹からは青々とした生きのいい葉が伸び  
ている。この葉の勢いからは案内にある「枯死寸前」とはとても、とても思えない・・・皆様いかがでござ  
いましょうか???

さて、この木の生きざまに思いをめぐらすと、「人間の像」が見えてくる。直立不動ですらりとした全  
身が際立って美しく、肩の上には聡明な顔が乗っている。王冠をかぶっているようにも見える。どっし  
りと両足を踏ん張り、視線を走らせている。古代の王様か、中世の王様か、パチカンの法王にも見えな  
くもない。いや日本では戦国時代に勇名をはせた武将たちの姿に重なる。若くしてその名をはせた誰だ  
ろう。そういえば<sup>せきがん</sup>隻眼にも見えるかな。となれば独眼竜伊達政宗か・・・想像は膨らむ一方だ。すでに述  
べたが、これこそ、立ち木を見る楽しさである。続く



写真5 蓼科神社の神代スギ